

第108回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和6年3月21日（木）

午後7時～午後9時40分

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：17名（欠席6名）

傍聴者：2名

1 開 会 佐藤所長

2 代表あいさつ 小島代表

3 議 題

（1）ごみ収集における地域と自治体の役割について

令和5年度城山地区まちづくりを考える懇談会のテーマであった、ごみ収集における地域と自治体の役割について、市の廃棄物政策課から取組状況の説明があり、ごみ収集体制のあり方検討の進捗状況、個別収集の課題などの話があった。市の津久井クリーンセンターからは、ごみ集積所の設置・管理の基本的な考え方や他地区での取組状況等の説明があり、城山地区まちづくり会議にワーキンググループを設置し、ごみ集積所の課題解決を市と地域で協働で行うことが提案され、この取組が先進的事例として発信されて他の地域の参考事例になれば良いとの話があった。次回以降のまちづくり会議においてワーキンググループのメンバーを選出し、話し合いの場を設けることとなった。

《 主な意見 》

- ・ごみ収集等の市の取組状況の説明について、市からの説明があったが、質疑応答の時間を設けるべきであった。
- ・ごみ集積所の問題について、個別具体的な問題になるため、まちづくり会議委員だけではなく、実際に課題を抱えている地域の人をワーキンググループに加えて議論していきたいと考えている。全体会で議論をしてしまうと話が広範囲に及んでしまい、收拾がつかなくなる可能性があるため、本日は質疑応答は控えるようお願いしたところである。
- ・ごみ集積所の問題は、本来であれば自治会と市が協働で解決すべき問題であるが、今まで自治会が動いても課題解決に進まなかったため、今回まちづくりを考える懇談会で取り上げたことにより、前に進む兆しが見えて良かったと思う。
- ・スケジュールを立てて、市の担当者をしっかりと巻き込んで話を進めてい

く必要がある。放っておくと時間が過ぎて市は主体性を持って取り組まないとと思う。

- ・ワーキンググループを設置して議論をするのか、全体会で議論をした上で意見を吸い上げ、その後ワーキンググループに落とし込むのか、役員会で今後の進め方を再検討していきたい。

(2) 次期城山地区まちづくり会議の構成団体について

事務局から、城山地区まちづくり会議の構成団体について説明があった。役員会で検討していた公募委員の件については、今回のタイミングでは行わず、公募の課題や方法等を検討して、次年度以降に実施の判断を行うこととなった。

有識者については、曾根委員の退任の意向に伴い、有識者選考委員会を設置し、新たな有識者を選出することとなった。

(3) 令和6年度の取組について

令和6年度開催日程について、事務局から資料2に基づき説明された。また、第8期城山地区まちづくり会議委員の選出について、事務局から各団体の代表者に依頼文が送付される旨説明がされた。

(4) 城山地区で具現化していく取組について

全体会では、事務局から資料4、5に基づき、各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後にそれぞれ解散となる旨説明があった。

《 主な意見 》

- ・部会の検討について、各部会の進捗状況を全体会の委員全員の前で報告すべきであり、その内容について全員で議論すべきだと思う。

4 閉 会 曾根副代表

以 上

【全体会終了後の各部会での検討内容】

●高齢者とともに築き支える地域づくり部会

これまで部会で検討してきた取組「しろやま☆おせっかい」の地域活性化事業交付金申請のための事業計画書（案）及び収支予算書（案）についての検討を行った。その結果、一部修正し、地域活性化事業交付金の申請を行うこととなった。

《 主な意見 》

- ・まちかどウォッチングを来年度も引き続き行う予定。その時に、おせっかいの事例の発表などの講演やワークショップをやりたい。
- ・パネル展示やPR動画作成を行い、しろやま☆おせっかいの活動を広く周知し、輪を広げたい。
- ・声かけの方法等の実演を行って、おせっかいの精神を広げたい
- ・声かけ等のおせっかいは、嫌がる人も多い。声かけによらない、ゆるやかな見守りも必要になってくる。無関心にならないことが大事である。

●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

これまで部会で検討してきた取組「あつまれ～しろやまっこ！」の地域活性化事業交付金申請のための事業計画書（案）及び収支予算書（案）についての検討を行った。その結果、一部修正し、地域活性化事業交付金の申請を行うこととなった。

《 主な意見 》

- ・小学3～6年生を対象に事業を実施するため、チラシを作成する数も城山地区内の小学校の対象学年の生徒の人数程度とする。
- ・事業の参加者に豚汁を提供したいので、業者に委託をして調理をお願いする委託料と、ガス器具の賃借料を予算計上した方が良い。
- ・参加賞としてお菓子を用意する。
- ・トイレは会場の川尻小学校にお願いして外トイレを借りる。

以 上

第108回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期：令和4年4月27日～令和6年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会(会長)	代表	小島 盛生	出席
2		城山地区自治会連合会(副会長)	部会長①	林 和博	出席
3		城山地区自治会連合会(副会長)		中野 秀人	出席
4		城山地区自治会連合会(川尻小学校区)		井上 貢一	出席
5		城山地区自治会連合会(湘南小学校区)		西川 正行	出席
6		城山地区自治会連合会(広陵小学校区)		安西 忠義	出席
7		城山地区自治会連合会(広田小学校区)	副部会長②	小原 貴弘	出席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会		井上 章	欠席
9		城山地区民生委員児童委員協議会		菅野 敬子	出席
10		城山地区シニアクラブ連合会		金子 宏夫	出席
11		城山ボランティア連絡会	副部会長①	宗田 眞理子	出席
12		城山地域包括支援センター		藤瀬 香理	欠席
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	出席
14		城山観光協会		桜井 かおる	出席
15		相模原法人会(津久井第1支部)			
16	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		小野寺 義行	出席
17		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	欠席
18	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	高野 朝枝	出席
19		PTA連絡協議会城山ブロック協議会		高井 かおる	欠席
20		城山体育振興協議会		長田 尚	欠席
21		城山地区小中学校長情報連絡会		井上 成子	欠席
22		特定非営利法人 城山スポーツ&カルチャークラブめいぷる		片倉 理恵	出席
23	有識者		副代表	曾根 哲男	出席
24			部会長②	金子 直美	出席

①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会

出席者数 17人

②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

欠席者数 6人

第108回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和6年3月21日（木）

午後7時

会 場 城山総合事務所本館

2階B会議室

1 開 会

2 代表あいさつ

3 議 題

(1) ごみ収集における地域と自治体の役割について（まちづくりを考える懇談会テーマ）
・・・資料1

(2) 次期城山地区まちづくり会議の構成団体について

(3) 令和6年度を取組について

ア 開催日程について ・・・資料2

イ 第8期城山地区まちづくり会議委員の選出について ・・・資料3

・資料2について、各選出団体の代表者に依頼文を送付しております。

(4) 城山地区で具現化していく取組について（部会検討） ・・・資料4・5

4 閉 会

<次回の予定>

第109回全体会

4月25日（木）午後7時

城山総合事務所
本館2階B会議室

ごみ収集における地域と自治体の役割について

○市の現状・取組状況及び課題解決に向けた今後の協働の進め方について

令和5年度城山地区まちづくりを考える懇談会

「地域の未来を語ろう with 市長」結果報告

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを選定する(原則一つ)。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
- ② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概 要	ごみ収集における地域と自治体の役割について
内 容	<p>ごみの収集方式は、ステーション（ごみ集積場所）収集と戸別収集に分かれるが、城山地区では、全域がステーション収集であり、そのごみステーションの設置・管理は利用者である地域住民が行うことになっており、自治会等の地域団体がその役割を担っている。</p> <p>しかしながら、住宅開発が進み世帯数が増加している地域においては、住宅地の開発基準との関係でごみステーションが設けられないケースがあり、既存のごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所が複数ある。</p> <p>こうした中、自治会員以外への対応をこれまでどおり自治会が担っていくことは、自治会加入率が約50%という状況から考えても困難であり、また、ごみステーションを新設する際の土地の確保も難しく、自治会での対応には限界がある。</p> <p>そこで、ごみステーションの設置・管理を市と地域住民で協働して行うことができる仕組みづくりや、戸別収集への変更の可能性などについて懇談したい。</p>

■地区の取組状況等

・城山地区では、地域が一体となってごみの分別や資源回収、ごみの減量化に取り組むなど、市が進めるごみ対策に積極的に協力している。特に集団資源回収については、12の自治会のある城山地区内で、子ども会や自治会などの14団体が実施しており、この活動はごみの減量化だけでなく、地域コミュニティの醸成とSDGsの推進にも寄与している。

■市の取組状況等

市の現状・経過・取組状況（廃棄物政策課・津久井クリーンセンター）

◎ごみ集積場所について

- 集積場所用地については、地域や利用者間で調整し、確保することを基本として、個別の相談にも応じているが、地域によっては、用地の確保が難しい場合もあると認識している。
- 集積場所の新設・移設等については、市民の方から相談を受けることがあるが、市民の方のご理解とご協力によりスムーズな解決ができるよう心掛けている。
- 令和5年11月17日（金）に城山地区自治会連合会会議において、小田急電鉄株との一般ごみ収集のDX化に関する実証実験について説明した際に、原宿自治会会長から「既存のごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所がある。」との意見があり、11月20日（月）に現地及び周辺を確認した。新設には集積場所の確保等の観点から、困難であると判断したが、周辺には、ごみの排出余力がある集積場所が確認できたため、自治会長に代替案として、ごみを集積場所に排出する世帯の分散を行っていただくことを提案し、自治会として検討するとの回答を得ている。

◎戸別収集について

- 今年度、収集体制の在り方等についてコンサルに業務委託を行い、必要な人員や車両数を検証するための積算や課題の洗い出しを行っている。
- 本市の一般廃棄物処理の基本方針である「第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画」の改定中であり、戸別収集については「市民ニーズに対応したごみ収集の検討」と明記している。
- 市内の約34万5千世帯（令和5年11月時点）について、一般ごみ及び資源物も含めて検討する必要があり、本市では、居住形態の約半数が共同住宅のため、こうした方々は戸別収集となった場合でもステーション収集のままとなる。
- 令和5年10月17日に相模原市環境事業協同組合と戸別収集について意見交換会を実施し、特に若い人の人材確保や収集体制等についての意見があった。
- 戸別収集は、ごみが出しやすく、排出マナーの改善が期待されるなどのメリットがある一方、住宅ごとの敷地内にごみの排出場所の確保や、カラス対策等も各戸で対応する必要がある。また、現状のステーション収集と比較して、多額の経費や多くの作業員を要する必要があるなどといったことが課題となる。

今後について

◎ごみ・資源集積場所について

- 他自治体の事例も参考にしながら、民間事業者への働きかけなど、ごみ・資源集積場所の確保策について研究し、地域住民が安心して利用できるよう望ましいあり方について検討する。

◎戸別収集について

- 本市のごみの排出量や近隣自治体の動向なども見極めながら、本市に適した収集体制の在り方について検討する。
- 高齢化に伴い、ごみ出しが困難となる方々の支援が課題と認識しており、関係機関と連携を図りながら社会情勢やニーズに対応した収集体制について検討する。

参 考

◎ごみ・資源集積場所設置数一覧

地区	大字	設 置 数
相模原市域		19,169
相模原市域（夜間収集）		1,238
津久井地域（4地区）		2,281
・城山地区		711
	小倉	19
	原宿	121
	向原	87
	川尻	37
	葉山島	13
	原宿南	59
	久保沢	75
	城山	57
	谷ヶ原	17
	中沢	20
	広田	10
	町屋	151
	若葉台	45
・津久井地区		846
・相模湖地区		371
・藤野地区		353

※ごみ・資源集積場所数については令和5年4月1日現在

◎戸別収集の実施状況

政令指定都市…名古屋市、大阪市、堺市、福岡市

神奈川県内…藤沢市、大和市、海老名市、（厚木市※モデル地区として実施）

近 隣 市…町田市、八王子市

◎戸別収集のメリット、デメリット

○メリット

- ・市民が廃棄物を排出しやすい
- ・高齢者等の排出負担が軽減される
- ・事業系廃棄物を切り離すことができる
- ・排出マナーの改善が期待できる
- ・分別排出が徹底される
- ・個別の排出指導を行いやすい
- ・廃棄物搬出に対する責任の醸成が図られる

○デメリット

- ・作業量が多く、収集時間がかかるため、収集費用が増大する
- ・ごみ収集車が増加するため、環境負荷が増加する（二酸化炭素排出量の増加）
- ・排出者自身が収集箱等を設置し、カラス対策等を講じる必要がある
- ・プライバシーの問題が指摘される
- ・集合住宅では、ステーション収集方式と変わらない
- ・事業者の人材確保が困難

【質問・意見と市の回答】

質問・意見	市の回答
<p>戸別収集について、緑区では高齢者が多いということもあり、導入すれば大きなメリットがあると感じる。一方、中央区・南区は共同住宅が多いため、戸別収集のメリットがあまりないのかもしれない。区ごとに区別して戸別収集を検討しているか。</p>	<p>区ごとに区別して収集体制を検討することも考えられると思っはいるが、課題も非常に多いと考えている。ただ、今後のことを考えると、固定概念に捉われず、様々な角度から検討していきたいと考えている。</p>
<p>戸別収集と現状の収集体制、経費の違いなどは試算が出ているのか。戸別収集をやっている自治体はごみ袋が有料である。高齢者が多い地域は、戸別収集のメリットがあるが、ごみ袋が有料になって負担を強いられる側面もある。市はどう考えているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別収集の傾向として、ごみ袋の有料化がセットで行われているところが多いが、本来は別の話である。戸別収集にした場合、市の財政的な影響はどのくらいあるのか、課題はどんなものがあるのか、検討しているところで、今後、本市に適した収集体制のあり方を検討していきたい。それとは別に、ごみ袋有料化については議論が必要であると考えているが、どれが一番適した体制かというところは、まだ結論は出ていない。 ・現在、コンサルに業務委託して戸別収集した場合の人員や経費等の調査をしている状況で、調査結果を踏まえて算出する予定。 ・戸別収集になると作業員の動く距離が長くなるが、作業員の高齢化が進んでおり、実際に作業ができる体制が整うのか、作業員の人員も増やす必要があるため、採用できるのか、様々な検討が必要である。町田市や八王子市で実績のある事業者には現状や課題を聞き、検討していきたい。
<p>ごみ収集体制の在り方の検討はいつまで行う予定か。時期的なことを教えてほしい。また、市民の意見をどのように聞いて進めていくのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、調査を行っており、データは年度末に出るので、時間をいただきたい。 ・一般廃棄物処理基本計画は令和9年度までになっているので、令和9年度まで検討を行うことになるかと思う。課題が多いので、皆さんの意見を聞いて進めていくべきだと考えている。
<p>実験的にある地区で戸別収集を実証してみるとか、そのようなことは計画にあるのか。政令市なので、もっとスピード感を持ってやってほしいし、計画があれば積極的にアナウンスをしてほしい。</p>	<p>町田市、八王子市は戸別収集をやっているの、皆さんが気になるころではないかと思うが、逆に横浜市や川崎市などの大都市はやっていないという状況もある。いろいろと課題があつての選択だと考えているので、検討していきたい。特に高齢者のごみ出しは切実な問題だと考えているので、先行してやれるかどうかは議論が必要だが、なるべく対応できるころはやっていく姿勢で臨みたい。</p>
<p>ごみ収集について地域住民を巻き込んで、一緒に考える場を設けてみてはどうか。自治会に投げるだけではなく、いい仕組みを作って、話し合う場を設けてほしい。</p>	<p>ごみを集めやすく、出しやすくするためにも、市と地域の歩み寄りができる仕組み作り、対話が重要だと思うので、担当課や区役所、まちづくりセンターも一緒になって、話し合いの機会を頻りに設けるのは重要だと考えている。</p>

質問・意見	市の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・戸別収集はいい話だと思うが、経費が何倍もかかるのではないかという気がしている。 ・ごみステーションの場所だが、土地代が安い地区でも、やはり自分の土地に置いていいという立派な人はいない。津久井クリーンセンターなど、市の職員はよくやってくれているが、トラブルは絶えない。公園の一角とか広い市道の一部を使用するなど、公園は公園、道路は道路ではなく、縦割りではない横の連携を密にして対応してほしい。そういう視点で考えてもらえれば、自治会も一緒になって考えることができるし、いい方向に話が進むと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や道路を削ることが最善かどうかは検討が必要だが、縦割り行政ではなく、横の連携をしながらより良い方向を見出せるよう努力していきたい。その結果、安心してごみステーションを利用できる環境作りを実現していきたい。 ・地域の方との意見交換の場が必要であると考えているので、しっかり取り組んでいくということはこの場で約束したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアをやっていると、高齢者からのごみ出し依頼が増えている現状がある。1回につき100円で行っているが、ごみステーションまでごみを出すのが難しいという方が多い。戸別収集は収集する作業員の人員増や負担増もあるため、お金だけでは解決できない難しい問題である。 ・広報紙に、資源ごみをリサイクルして売り払うと、9億円程度になることを知った。このお金をどのように使っているのかわからないが、自治会などへの補助金を増やして、ごみステーションの改修や新設に使ってほしい。 ・地域の方が自分の土地にごみステーションを置いても良いと思えるような、清潔な環境を整えることも必要。 ・ごみ出しの際、空気を抜いて出すなどの工夫は住民にはできるが、ボックスの購入などは住民にはできないので、ぜひごみ行政にお金を使ってほしい。 ・行政がごみ問題に取り組んでいると思っていたが、自治会が問題に直面して苦労しているということを聞いて唖然とした。自治会の加入、未加入に関わらず、行政がお金を出して対応してほしい。 ・ごみ収集のDX化は、不法投棄を助長させるように感じる。外部から来て、空いているステーションにごみを捨てる人も出てくると思うので、DX化ではなく、ごみステーションの設置などを行政が対応してほしい。京都は夜の収集なども行っているため、そういうのも参考にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルによる資源の売り払いで9億3千万円ほどの収入があることは事実だが、その回収に倍以上の費用がかかっており、市の儲けになっている訳ではないので、廃棄物行政の一部に使っている。ごみの中には資源化できるものが入っているので、リサイクル・資源化の普及啓発に取り組んでいる。 ・夜間収集や戸別収集には課題もある。戸別収集はカラス対策などの懸念材料があるが、高齢者への対応は早々の対応が必要であると認識しているので、早く実現できるよう努力していきたい。 ・南清掃工場の金の回収について、令和3年度から始めているが、取組みを進めていきたいと考えている。売却収入から経費を引いた利益について、令和3年度は約3,700万円、令和4年度は約1,600万円である。また、パラジウムという金属の回収に向けて研究を進めているところである。廃棄物行政は注目を集めているので、全力で取り組んでいきたい。

質問・意見	市の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量はどこの自治体でも課題であるし、エッセンシャルワーカーの課題もある。そういったことも含めて、市で、ごみについてみんなで考えるシンポジウムのようなものを立ち上げて、行政と市民が一緒になって考えていく展望を持ってほしい。ごみとどう付き合っていくのかを市全体で考えることができれば面白いと思う。 ・行政からは、検討していくという言葉をよく聞くが、市民が参加しながら課題に向き合う取組みができれば、大きなSDGsになると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみも一つの資源であるので、循環型社会の考え方を普及させていきたい。ある会社は、コンビニなどのお店の食品で賞味期限切れのものを豚の肥料にする取組みをしていたり、これまで燃やして処分していたものを資源として活用する取組みが発達してきている。皆さんに知っていただき、理解を深めていただきたい。 ・動静脈連携という言葉があるが、今までは生産者の効率が向上してきて極まってきているが、廃棄物に関してはまだ改善の余地があるという考え方があるので、生産の過程においても廃棄物のことを考えて、効率化していく取組みが発達していくと思っている。市としても、ごみの排出者の意識を変えていく取組みも進めていきたい。
<p>分別やごみの減量は地域で努力するが、ごみステーションの容量が少なくごみを出せないようでは困るので、行政がごみステーションの設置やボックスの整備をしてほしい。昨年、下九沢にあるごみ焼却場を見学したが、ごみに対しての意識も変わるので、ぜひ、焼却場を見学して、現実を見てほしい。</p>	<p>清掃工場を見学していただくことが、廃棄物に関する理解が早まる一つの方法だと思う。最終処分場なども見学していただき、ごみ分別の重要性を理解していただきたいと考えている。清掃施設課では、見学を積極的に受け入れているので、問合せをいただきたい。</p>
<p>高齢者のごみ捨てについて、現状を伝えたい。ごみステーションまで道路を渡らなくてはいけない方は、車が危ないので、朝の3時とか4時にごみ出しをしている人がいる。ごみの分別ができなくてごみ屋敷になっている人もいる。ヘルパーやボランティアなどをお願いしてごみ捨てをお願いしている人もいるが、ヘルパーやボランティアが不足しており、ごみ排出の曜日をお願いできない状況がある。その場合は1日前、2日前にごみ捨てをすることがあるが、ステーションやボックスの状況によってはその方法が難しいこともあるので、きちんとしたステーションやボックスがある安心した社会の実現のためにも、自治体に頼ることなく、行政が設置・整備をしてほしいと思う。</p>	<p>高齢者のごみ捨ての問題は喫緊の課題として認識している。実情をよく理解して、皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。</p>
<p>地域の問題について、市と地域、双方が話し合える機会を作っていただけるということで、協働してこの課題に取り組んでいきたい。検討の結果、報告できるものがあれば、まちづくり会議で報告をしていただきたい。</p>	<p>待つ行政ではなく、出向く行政に変えていかなくてはならないと考えているので、ぜひ対話の機会を作っていきたい。</p>

令和6年（2024）年度城山地区まちづくり会議の開催日程

作成：令和6年3月4日

1 全体会

回次	月	日時（予定）	内容	主な内容（予定）	場所	備考
第109回	4月	25日（木）午後7時	全体会	・R6地域活性化事業交付金事業意見聴取について	城山総合事務所 本館2階B会議室	
第110回	5月	30日（木）午後7時	全体会	・まちづくり会議について ・R6まちづくりを考える懇談会のテーマについて ・具現化していく取組について（部会検討）		
第111回	7月	25日（木）午後7時	全体会	・R6まちづくりを考える懇談会のテーマについて ・具現化していく取組について（部会検討）		
第112回	9月	26日（木）午後7時	全体会	・R6まちづくりを考える懇談会のテーマについて ・具現化していく取組について（部会検討）		
第113回	11月	28日（木）午後7時	全体会	・R6まちづくりを考える懇談会のテーマについて ・具現化していく取組について（部会検討）		
/			まち懇	・R6城山地区まちづくりを考える懇談会	城山公民館 1階大会議室	
第114回	1月	30日（木）午後7時	全体会	・R6城山地区まちづくりを考える懇談会の振り返り ・具現化していく取組について（部会検討）	城山総合事務所 本館2階B会議室	
第115回	3月	18日（火）午後7時	全体会	・R7開催日程について ・具現化していく取組について（部会検討）		

2 専門部会

基本的に全体会と同時開催。ただし、必要に応じ別途開催する。

写

令和 6 年 3 月 日

城山地区まちづくり会議
各構成団体 代表者 ●● 様

城山地区まちづくり会議
代表 小 島 盛 生

第 8 期城山地区まちづくり会議委員の選出について（依頼）

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃から、城山地区のまちづくりにつきましては格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、城山地区まちづくり会議では、各種地域活動団体などの皆さまにご参画いただき、地域課題の解決や魅力あるまちづくりを進めておりますが、第 7 期委員の任期が本年 4 月 26 日をもって満了となることから、改めて貴団体からまちづくり会議委員をご選出いただきたいと思います。

なお、選出に当たりましては、多角的な視点や多様な見識などの観点から幅広い年齢や男女共同参画にもご配慮くださいますようお願いいたします。

つきましては、別紙に必要事項をご記入いただき、選出期限までに事務局へご報告いただきますようお願い申し上げます。

- | | |
|---------|---|
| 1 人 数 | 1 人 |
| 2 報 酬 | 無報酬 |
| 3 委員任期 | 2 年 |
| 4 選出期限 | 令和 6 年 4 月 1 7 日（水） |
| 5 提出方法 | 郵送、F A X など |
| 6 そ の 他 | 選出期限までに委員の推薦が困難な場合は、恐れ入りますが事務局までご連絡をお願いいたします。 |

以 上

事務局 相模原市緑区役所
城山まちづくりセンター
総務・地域振興班
担当 船橋
電 話 042-783-8117
F A X 042-782-1290

高齢者とともに築き支える地域づくり部会 検討事項

1 臨時部会の結果について

○令和6年2月19日に臨時部会を開催し、地域活性化事業交付金を利用して行う来年度の事業について、内容の検討を行った。

《 主な意見 》

- ・今年度実施した「まちかどウォッチング」について、来年度も実施することとし、今年度未実施の地域を対象としてはどうか。
- ・今まで地域で行われてきた“おせっかい”の事例を、簡易的に講演のようなかたちで話す場を設けたり、実際に地域で声かけを行う際の方法やコツを実演して地域の方に見てもらった方が良い。
- ・おせっかい風土を根付かせるため、「しろやま☆おせっかい」の活動内容のパネル展示や、PR動画を作成してみるのも良いと思う。
- ・おせっかいコンテスト（仮称）を開催してみてもどうか。困っている人を仮に何人か設定（背中に困りごとを書いた紙を貼るなど）し、どういうアプローチをすれば良いか試行してみるのも良いのではないか。
- ・おせっかいTシャツを作成して、活動の際にスタッフが着るのも良いと思う。おせっかいコンテストの景品にするなどの活用も考えられる。
- ・来年度で地域活性化事業交付金は終了となるため、取組の継続を考える必要があり、各自治会や育成会などの地域団体で取組が継続されるよう、働きかけを行う必要がある。

○臨時部会で出た意見を基に、地域活性化事業交付金の申請書類の案を作成し、その内容を次回のまちづくり会議で検討することとなった。

2 令和6年度地域活性化事業交付金申請（案）について

(1) 事業計画（案）

(2) 収支予算（案）

- ・必要物品等
- ・チラシ作成部数
- ・Tシャツ作成枚数
- ・その他

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会

代表者の役職及び氏名

部会長 林 和 博

代表者の住所又は所在地

相模原市緑区久保沢1-3-1

担当者連絡先 事務局：城山まちづくりセンター Tel：042-783-8117

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名（事業の名称を記載してください。）

しろやま☆おせっかい

○事業実施の背景や地域の現状と課題（地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。）

城山地区では、高齢者サロンや健康体操など、地域における交流活動が活発に展開されている。しかしながら、生活様式や個人の価値観の多様化などにより、自治会、シニアクラブ、その他さまざまな交流活動の場など地域社会との直接的な関わりを持たない高齢者も増加していると感じている。そうした中、地域社会との積極的な関わりを望まない人に対しては、誰かと繋がっているという安心感が得られるようなゆるやかな見守りの仕組みが必要であると感じ、令和2年度に「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。

○事業の目的（事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。）

城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への直接的な声かけのほか、目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させ、誰も取り残されない、取り残さない”しろやま☆SDGs”の街を形成するため、今回は城山地区の住民の方々と実際に地区内を回り、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への声かけと併せて、声かけによらない目配せ・気配りによる異変の有無の確認などを通じて“おせっかい風土”をさらに広め根づかせる。

○事業内容（当該事業の具体的な内容を記述してください。）

令和5年度は、“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民（在学・在勤を含む）から参加者を募り、実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッジ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図った。

今年度は、「まちかどウォッチング」を引き続き実施すると共に、実際に地域で行われた“おせっかい”の事例紹介や、声かけを行う際の方法などを地域の方に見ていただく場を設け、さらなる風土の醸成を図りたい。また、「しろやま☆おせっかい」を根づかせるため、活動内容のパネル展示などの普及・啓発活動を行う。

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
4～6月	まちかどウォッチング実施方法の検討 参加者募集チラシ配付方法の検討 参加者募集チラシ（案）検討・作成	
7月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第1回） 地区（予定）	
9月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第2回） 地区（予定）	
11月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第3回） 地区（予定）	
12～1月	活動報告、普及・啓発実施方法の検討（パネル展示など）	
1月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第4回） 地区（予定）	
2月	パネル展示等、普及・啓発活動	
	その都度地域情報紙などで広報を行う	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

- ・次年度以降も引き続き城山地区の住民が少しだけおせっかいになるように、関係団体へ働きかけを行い、地区内への意識の浸透を図る。
- ・取組の継続を担保すべく、将来の取組体制について検討を行う。
- ・今年度の取組を踏まえ、PDCAサイクルに基づき検証を行い、新たな取組の必要性について検討を行う。

※PDCA：Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のサイクル

○総事業費

・予算総額： 160,000円 ・(内交付金申請見込額)： 160,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
- 話合い（地域の複数人がそう感じている。）
- 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
- 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
- 社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）
- その他（内容：）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

■地域の防災・防犯に関する事業

□地域の保健・健康づくりの増進に関する事業

■地域福祉の増進に関する事業

□産業や観光の振興に関する事業

□環境の保護・保全に関する事業

□青少年の健全育成に関する事業

□地域の文化・伝統の振興に関する事業

□生涯学習に関する事業

□地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業

□区が推進する重点事業

□その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

□新規

■既存

□既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：■有（交付年度 令和2，5年度）・□無

他の市の補助制度の交付状況：□有（交付年度 年）・■無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

□自治会加入促進

具体的内容：

□地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

□公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

□地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

■まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

平成30年度から城山地区まちづくり会議において、地域と繋がりのない高齢者が孤立しない仕組みについて検討が行われ、令和2年度には、「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。令和5年度は“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民と一緒に実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、取組の意識向上を図った。

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

■地域情報紙 団体の会報など 団体のホームページ 新聞等への情報提供

■その他（自治会回覧等）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

令和6年度 収支予算書

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
市交付金	160,000円	120,000円	40,000円	
収入合計	160,000円	120,000円	40,000円	

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
一般経費	160,000円	120,000円	40,000円	
消耗品費	63,000円	65,000円	△2,000円	事務用品等 10,000円 缶バッジ材料 3,000円 Tシャツ 50,000円
印刷製本費	44,000円	35,000円	9,000円	チラシ作成 27,000円 展示パネル作成17,000円
食糧費	20,000円	20,000円	0円	参加者飲み物
手数料	2,500円	0円	2,500円	代引き手数料等
使用料	500円	0円	500円	エアコン使用料
委託料	30,000円	0円	30,000円	PR動画作成委託30,000円
特別経費	0円	0円	0円	
支出合計	160,000円	120,000円	40,000円	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円を超える財産を購入する場合は、この欄に記入

子どもたちの主体性を育む地域づくり部会 検討事項

1 臨時部会の結果について

○令和6年2月15日に臨時部会を開催し、地域活性化事業交付金の申請書類の案を元に、必要な予算等の内容検討を行った。

《 主な意見 》

- ・城山地区子ども会育成連絡協議会が、裾野を広げて城山地区全体に活動を拡げたいという思いは、部会の理念と通ずるものがある。
- ・事業の対象はおおよそ小学校3年生から6年生までの年齢で、人数は60名程度とする。時間は9時から12時。
- ・子どもたちの意見の吸い上げ方を検討する必要がある。アンケートを取るか、その場で直接聞くのが良いと思う。
- ・事業実施の当日は、モルックの指導ができて審判員のような立場で参加できる方を8名程度お願いしたい。謝礼の予算が必要である。
- ・チラシやポスターのデザインは自前で行えばいいと思うので、必要経費は印刷製本費のみで良いと思う。
- ・モルックによる交流の後、子どもたちに豚汁を食べてもらって交流を深める場を設けたい。また、その際に意見の吸い上げを行うのも良いと思う。安全面を考えても、豚汁は事業者に委託して手配をし、提供してもらう方が良い。

○臨時部会で出た意見を基に、地域活性化事業交付金の申請書類の案を修正し、その内容を次回のまちづくり会議で検討することとなった。

2 令和6年度地域活性化事業交付金申請（案）について

(1) 事業計画（案）

(2) 収支予算（案）

- ・必要物品等
- ・チラシ・ポスター作成部数
- ・豚汁提供数
- ・その他

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

代表者の役職及び氏名

部会長 金子 直美

代表者の住所又は所在地

相模原市緑区久保沢 1-3-1

担当者連絡先 事務局：城山まちづくりセンター TEL：042-783-8117

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名（事業の名称を記載してください。）

あつまれ しろやまっこ

○事業実施の背景や地域の現状と課題（地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。）

かつて、子どもたちの社会性の基礎となる「人との関わり」は、近隣の子ども同士の交流や、家庭の中でのきょうだい同士の交流の中で、遊びを通して自然に身に付いてきた。大きい子どもは小さな子どもをいたわり、守る。小さな子どもは大きな子どもに感謝し、憧れる。そんな関わりの中で、ゆっくと育まれてきた。

しかしながら、地域の間関係の希薄化が進み、近所づきあいや親戚づきあいも減少し、少子化によってきょうだい数や地域の子どもの数が減ってくる中で、子どもたちが「人と関わる」ことに自然に慣れ、「人と関わりたい」という思いを自然に感じとっていく、そんな場も機会も失われてきているように感じられる。

こうした状況の中、城山地区まちづくり会議では、部会を設置し、「既存の伝統行事や観光資源などを生かし世代間・地域間交流を進めるとともに、子どもたちが主体性をもって地域に関われる仕組みづくり」をテーマに検討を進めてきた。

○事業の目的（事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。）

近年、少子化の進行による子どもの減少に伴い、地域での同年齢・異年齢のさまざまな子ども同士のふれあいが少なくなり、地域における多様な子ども集団の形成が難しく、城山地区のほとんどの地域は育成会の活動が縮小している、子どもの社会性などの育成面で困難な状況が生じている。

このような状況下において、城山地区の観光資源などを活用し、子どもたちの主体的・自主的な取組を通して、子どもたちの異年齢・世代間の交流を図り、その活動を通して、子どもたちの社会性や主体性を育むとともに地域への理解を促し愛着心を育てることを目的とする。

○事業内容（当該事業の具体的な内容を記述してください。）

城山地区の小学生を対象に、城山地区子ども会育成連絡協議会と協力・連携をして、モルック等の遊びやスポーツを通じて子どもたちが集まり交流できる場を設け、子どもたちから出される意見を聞きながら、子どもたちの主体性や社会性、地域への愛着心を育むことができる事業を実施する。

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

■新規 既存 既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：有（交付年度 年度）・■無

他の市の補助制度の交付状況：有（交付年度 年）・■無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

自治会加入促進

具体的内容：

地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

■まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

平成30年度から城山地区まちづくり会議において、子どもたちが主体性を持って地域に関われる仕組みづくりについて検討が行われ、子どもたちを集めて行う事業を計画し、実施することとなった。

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

■地域情報紙 団体の会報など 団体のホームページ 新聞等への情報提供

■その他（自治会回覧等）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

令和6年度 収支予算書

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
市交付金	円	0円	円	地域活性化事業交付金
収入合計	円	0円	円	

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
一般経費	円	0円	円	
報償費	40,000円	0円	円	コーディネーター謝礼 40,000円
消耗品費	18,000円	0円	円	事務用品等 10,000円 ベスト 8,000円
印刷製本費	5,000円	0円	円	チラシ印刷 (800部) 5,000円
食糧費	円	0円	円	参加者飲食費 円
委託料	円	0円	円	豚汁提供委託 円
特別経費	0円	0円	0円	
支出合計	円	0円	円	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円を超える財産を購入する場合は、この欄に記入